建築家とコラボレートした実例。

「宇都宮の屋上果樹園」

上）ゲストハウスの全景。2階にヤマボウシが植えられ、3階から顔を出しているのがわかる。吹抜け部分に合うように樹形から選んだ。下）和室前は草花が枯れる冬でも庭を楽しめるようにとロックガーデンにした。山野草の緑が砂利の色に映える

上）屋上庭園に開かれたホール。佐藤さんご夫妻はここをオーチャードルームと呼ぶ。鉢植えの果樹などの避難場所でもある。左）ロックガーデンとの境目は和と洋の折衷に気を遣った

永年の夢であった屋上ガーデン。ここで、建主である佐藤誠さんは果樹を育て、奥さんの幸子さんはガーデニングを楽しむ。建主、建築家、ガーデンデザイナーが三位一体となり実現した庭園の紹介だ。

庭がほしい。だけどそのスペースは屋上しかない。

佐藤さんが果樹栽培に本格的に取り組みはじめたのは5年前。ある方から贈られた果樹の苗木がきっかけで、果樹栽培の魅力にどっぷりはまったという。もともと凝り性である佐藤さんは、自分の果樹園がほしいと思うようになるまでにそう時間はかからなかった。だが、自営業を営んでいるため、駐車場スペースを確保しなければならず、敷地内に果樹園をつくるのは無理。では、ということで、駐車場に3階建てのビルを建てることにした。1階を駐車場にし、2階はゲストルーム、そして3階を果樹に囲まれた憩いの場にしようと考えたのである。

この計画に正木さんは設計を担当したテイクス設計事務所の武井さんと一緒に家づくりの段階から取り組んだ。当初、図面では3階部分はガラスで囲ったサンルームにする予定だった。だが、正木さんはこれを変更するように申し出る。「これでは陽射しが直接室内に射し込み、中は温室状態になってしまいます。この果樹園はいってみれば、佐藤さんの夢です。快適な環境でこそ夢はかなえられると思い全体のデザインを考えなおそうと提案しました」

こうした考えを武井さんは理解し、西陽を遮るようにオーチャードルームを南側に張り出し、東へ大きな開口部を設けることで解決した。その他にも正木さんはRのラインを使い、空間を広くみせるようにし、果樹を植える花壇の下には保水・排水マットを敷いた。この仕様は今まで屋上庭園を手がけた経験から正木さんがセレクトした。

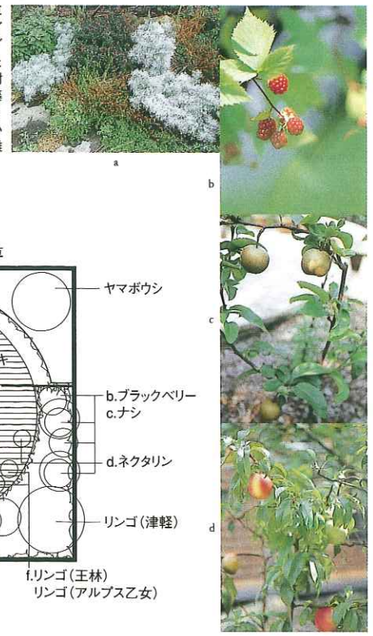
だが、武井さんも、正木さんのコンセプトを理解しながらも独自の建築を施した。たとえば花壇の下は逆梁構造にし、ドレインはメンテナンスが楽にできるようにと工夫。手摺も庭のテイストにあうように木を黒く着色し、風が通るように手摺の間隔をとった。

こうして、果実が実り、風の通る屋上庭園が完成。建築のプロと庭づくりのプロ。プロフェッショナル同志の連携により、佐藤さんの夢は実現されたのである。

絶景かな、屋上果樹園 市街地を背景に、リンゴが風に揺れる

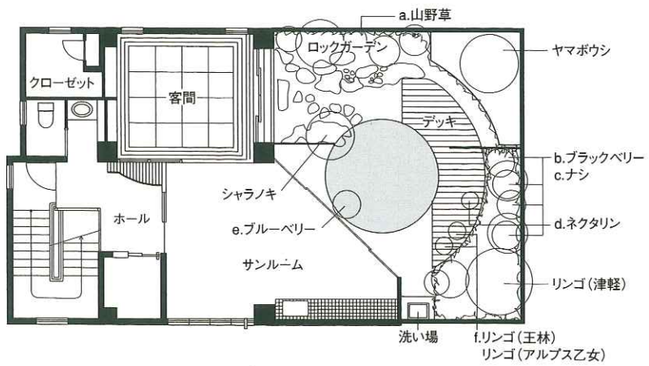
上）オーチャードルームの内壁は耐久性に優れるレッドシーダー材を使用。これは建築を担当した武井さんの提案。左）これはリンゴの王林。果樹はこのように鉢植えにされているものも。鉢でも見事な実をつけている

上）建築物をバックにリンゴの実を眺める。このギャップがおもしろいと佐藤さんは語る。一番好きな眺めだ。下）和室からの眺めは同じ庭とは思えないほど景色が変わる



a）和室前のロックガーデンには山野草が植えられる。ハーブ類のタイムやセダム、ヒースなど。b）これは熟す前のブラックベリー。c）手摺脇に植えられたナシ。ナシもまた育てるのが難しい。果樹の魅力は育てるのが難しいところと佐藤さんはいう。d）ネクタリンの実がちょうど熟していた。天敵は野鳥。実をついばみにやってくる。撮影後は屋内に避難

e）ブルーベリーの実がたわわに実っていた。野趣あふれる味だ。料理が趣味の奥さんはジャムにして楽しむ。f）シンボルツリーのリンゴは津軽。その他、王林、アルプス乙女、日本ではまだ珍しい、バレリーナなど数種に及ぶ



Check point

R状にしたのは正木さんの提案。ステンレスの手摺の下に黒く着色した木の手摺をつけたのは武井さん。風が通るように空間をあけた

庭園の敷石はジュラストーンと呼ばれるものを使った。石の中には化石が入っているものも。水に濡れるときれいな光沢をみせる

設計◎(株)テイクス設計事務所　TEL028-638-3730　造園◎栃木園芸　TEL028-636-4619　佐藤さんのホームページ「屋上果樹園」　http://www4.ocn.ne.jp/~fruits7/